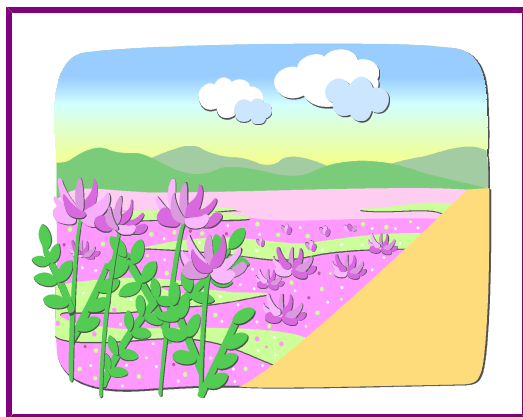


# めぐみイエス・キリスト教会

2020年4月19日(日)第三主日礼拝  
週報「通算第503号」



## 2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

|             |       |               |
|-------------|-------|---------------|
| 第一礼拝(各家庭にて) | 毎週日曜日 | 午前10時~11時     |
| 第二礼拝※中止     | 毎週日曜日 | 午後6時~7時       |
| 聖書の学びと祈り会   | 毎週水曜日 | 午後6時15分~7時15分 |

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年4月19日 第三主日礼拝 午前10時

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌112「カルバリ山の十字架」 p. 158

【交読文】 No.54 ヨハネの福音書14章 p. 922

【賛美Ⅱ】 新聖歌128「イースターの朝には」 p. 180

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.3 「復活の日の朝」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章24節～29節(新約p. 205上段)

【聖書研究】 《主イエスの復活から一週間後》

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 165

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【黙祷後奏】

※本日の聖書箇所 ヨハネの福音書20章24節～29節

20:24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らと一緒にいなかった。

20:25 それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た。」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」と言った。

20:26 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたにたにあるように。」と言われた。

20:27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここに付けて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私のわきに差し入れなさい。信じない者にな

らないで、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたは私を見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

### ◎聖書研究と分かち合い

①「トマスは、イエスが来られた時に、彼らと一緒にいなかった。」と言うことは、どのようなことが考えられるのか。

②25節トマスの言葉から、彼はどのような性格の人間であったと思うか。

③27節「あなたの指をここに付けて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私のわきに差し入れなさい。」と、主イエスはトマスの語った言葉(25節)を知っていたこととは、どういうことかと思うか。

④「見ずに信じる者は幸いです」とはどういうことか。(ヨハネ17:14～21参照)

### ◎ヨハネの福音書17章14節～21節(主イエスの父なる神への祈りから)

17:14「私は彼らにあなたのみ言葉を与えました。しかし、世は彼らを憎みました。私がこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。

17:15 彼らをこの世から取り去って下さるようにはなく、悪い者から守って下さるようお願いします。

17:16 私がこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。

17:17 真理によって彼らを聖め別って下さい。あなたのみ言葉は真理です。

17:18 あなたが私を世に遣わされたように、私も彼らを世に遣わしました。

17:19 私は、彼らのため、私自身を聖め別ちます。彼ら自身も真理によって聖め別たれるためです。

17:20 私は、ただこの人々のためだけでなく、彼らの言葉によって私を信じる人々のためにもお願いします。

17:21 それは、父よ、あなたが私におられ、私があるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らも私たちにおるようになるためです。そのことによって、あなたが私を遣わされたことを、世が信じるためなのです。」

※「見ずに信じる者」とは、使徒によって救いに導かれる者を指します。

## ◎先週のメッセージの概要【主イエス・キリストの復活】

《今日はイースターです。主イエス様が復活されたことをお祝いする日です。週の初めの日の明け方早く、女たちは、準備しておいた香料を持って墓に着きました。この女たちは、マグダラのマリヤとヨハンナ、ヤコブの母マリヤのことです。マタイによりますと、サロメもいたことが書き記されています。彼女は、ゼベダイの子らの母であり、主イエス様の母マリヤの妹にあたります。

彼女たちが墓に到着した時には、すでにローマ兵の四人の見張りが逃げ出したあとでした。そして墓に入ってみますと、主イエス様の御体は見あたりません。彼女たちが途方に暮れていると、二人の御使いが現われました。「あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられた頃、お話しになったことを思い出さない。人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。」

この言葉こそ、私たちの最大の慰めであり、かつ希望を与えるものです。女たちも、十一使徒たちも、誰もがイエス様がよみがえられることを信じていなかったのです。主は、三人の人をよみがえらせました。しかし、その本人が十字架上で死なれた時、一体誰がよみがえらせることができるのでしょうか。

使徒パウロは、その書簡において、キリストの復活について、このように述べています。「福音」とは、真に「**主イエス・キリストの復活**」を指すからです。『もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。』と。またパウロは、『最後の敵である死も滅ぼされます。』とも言っています。悪魔の最大の武器は、「死」です。しかし主イエス様は復活によって、永遠の命に至る道を回復して下さったのです。》

## ◎お知らせ

※主日礼拝は、4月26日(日)および5月3日・10日は、各家庭にて行ないません。また聖書の学びと祈り会も、4月22日(水)・29日および5月6日・13日まで、各家庭にて行ないません。その後はコロナの状況しだいです。